

本年度の活動方針に従って、withCOVID をテーマとした討議セッションを実施した。ここでは、その討議テーマ、セッションの様子を紹介する。討議は、8 月（テーマ発表と課題の抽出）と 9 月（対応策の検討）の 2 回に分けて実施した。

1. 討議テーマの発表

今回はコミュニティ・メンバー 2 社から、コロナ禍におけるチーム運営、マネジメントに関する課題提起があり、具体的な課題の説明がなされた。

「with コロナ、after コロナのソフトウェア開発における課題と対策」

東芝デジタルソリューションズ（株） 宮田真紀子

発表内容の概要：

アジャイル開発のプロジェクトが、コロナ対策の一環としてメンバー全員が 4 月から在宅勤務となった。本来同じ場所に集まって開発する事が推奨されるアジャイル開発だが、コロナ禍では難しい状況にある。実際にこのプロジェクトを在宅勤務で運営しているアジャイル開発現場の課題、および、その対策について説明された。コミュニケーションの問題、環境整備、生産性の低下など。皆さんの意見を聞きたい……

「テレワークにおけるチーム生産性」

さくら情報システム（株） 森隆彦

発表内容の概要：

サービス毎にスクラムを組み 14 のチームを運営している。もともと、開発拠点は 2 拠点に分散しており、拠点を横断的にチームを運営していた。今回コロナ対策として全員が在宅勤務となったが、コミュニケーション手段やツールに関して変化はなく、全員がテレワークになってもチームの生産性は落ちないはずであった。しかし、生産性が著しく低下するメンバーが出始めた……さて、問題はどこに

2. グループによる課題の整理

発表された課題の説明に対して、3 グループに分かれて討議を行った。各グループの討議は、討議内容を記録するために、グラフィックファシリテータによるグラフィックレコーディング（注 1）を試験的に導入している。

(1) グループ分割

- ① 1 グループ 5 名程度を目安として参加メンバーを複数のグループに分割
- ② 各グループには、記録係としてグラフィックファシリテータやグラフィックレコーダーが参加
- ③ 各グループは Zoom のブレイクアウトセッション機能で分かれてディスカッションを実施

(2) 課題の整理

- ① 提起された在宅勤務のチーム運営についた、提起された課題の本質を協議
- ② グループで課題に対するメンバーの認識、メンバー各社の状況を発表しながら、課題を整理する。この過程をグラフィックレコーディングしながら、最終的にグループで討議した課題を絞り込んだ。
- ③ グラフィックレコーディングは、初めての経験であったが、思いのほかスムーズに実施できた。

第 2 回 討議セッション（テレワークにおける生産性 with コロナ）

2020 年 8 月 25 日、9 月 25 日 開催

(3) 課題の発表

- グループで討議した意見や経緯、最終的に絞り込んだ課題についてグループの代表が説明
- 説明は、記録されたグラフィックレコードを参照・紹介しながら実施した。
- グループ 1 の課題（チームビルディング）
メンバーの能力のギャップによる個人差の拡大。これに伴うチーム全体の生産性の低下
- グループ 2 の課題（若手のケア）
対面できないことによる若手のケア、ツール活用の限界など課題が多い
- グループ 3 の課題（コミュニケーションを取りやすい環境）
在宅勤務環境の整備、チームや組織の風土改革の必要性

3. グループによる対応策の検討

「課題の整理～対応策の検討」まで 1 か月の期間がり、その間メンバーは自分なりの対応策を整理し、討議に参加した。今回は、対応策の共有が中心であるため、グラフィックレコーディングは採用していない。グループは、前回のグループ構成を継続して実施した。

(1) ディスカッションツール

- ① ディスカッションは前回同様に Zoom のブレイクアウトセッションによりグループ単位で実施
- ② ホワイトボードは、オンラインホワイトボード Meeemo を利用（今回初の試行）

(2) グループ 1 の対策案（チームビルディングの課題に対して）

- ① リモート雑談を意図的に実施する
- ② ペアプログラミングを組むことで、より密な関係を築く
- ③ 1on1 ミーティングを定期的開催し（月 1 回等）対話の中から状況を理解する
- ④ Will（将来志向）/Can（現在能力）/Must（組織期待）の明確化
- ⑤ 対話コミュニケーションの実施（対面の打ち合わせに価値を持たせる）・・・ 等

(3) グループ 2 の対策案（若手のケアに関して）

- ① 若手とのコミュニケーションは種類に応じて適切なツールを選択すべき（チャット、メールなど）
- ② コミュニケーションの種類、ツールは、情報の伝達目的や内容に応じてルール化すべき
- ③ ホワイトボードの代わりにペンタブレットの利用は有効
- ④ 適切な量の仕事を与え、チャット等により仕事を見せることも重要
- ⑤ リモート環境では、1 対 N のオンライン教育がより効果的・・・ 等

(4) グループ 3 の対策案（コミュニケーションを取りやすい環境作り）

- ① GRPI の活用（G：目的、R：役割、P：計画、I：関係性）を明確（可視化）する。
- ② リモートワークで生産性を向上させるノウハウを共有化する仕組み
- ③ ホワイトボードの代わりに、書画カメラを利用して「書きながら説明」することは有効
- ④ 基本的には、自律的に作業を進められる仕組み作りが重要・・・ 等

コロナの発生に伴い、システム開発現場が在宅勤務へと変化してきた。この環境変化の中で、物理的な環境だ

第2回 討議セッション（テレワークにおける生産性 with コロナ）

2020年8月25日、9月25日 開催

けでなく、コミュニケーション、チームの一体感、メンバーの自律的作業が重要な要素になってきた。特に、個人差が顕著となり、全体としてのチームの生産性低下が課題となっている。今回の議論で出た色々な意見を参考に、各社が工夫を凝らし、この結果を持ち寄って再度評価してみる価値があると感じた。

情報発信分科会 記

グラフィックレコーディングの例



グラフィックレコーダ：さくら情報システム株 川さん、東芝デジタルソリューションズ株 麻野さん、森さん、菱田さん、飯伏さん、高橋さん、飯岡さん